

平成31年度全国保育士養成協議会
東北ブロック春季総会（4月20日）

研究委員会報告

平成30年度全国保育士養成協議会
東北ブロック研究委員会

平成30年度ブロック共同研究

- 平成30年度共同研究テーマ

「養成校と実習施設との連携に向けた実習内容に関する調査研究」

- ① 東北ブロックの保育士養成校へのアンケート調査
- ② 実習実施施設へのアンケート調査
- ③ 「保育実習ガイドライン」の作成・追加

養成校 アンケート調査報告

「保育実習」の実際に関する調査研究

調査の目的と方法

保育実習実施基準及び教科目の教授内容の改正、保育実習指導のミニマムスタンダード ver. 2が改訂され、その中で“実習内容”については養成校と実習施設とが協議をして策定するよう求められた。さらに養成校内でも教員同士が連携して指導することが記載されたことから、各養成校における学内の連携、「保育実習」の内容の認識に焦点を当て、調査検討を行うことを目的とした。

(1) 調査時期と対象者

- 調査時期と対象

2018年9月～10月

全国保育士養成協議会東北
ブロックに加盟している41校
(全養成校) の保育実習担当
者と対象とし、41校から回答
を得た (回答率100%)

(2) 各校にご依頼した調査項目

- 調査項目は4項目

- ① フェイスシート
- ② 保育所実習における実習全般
- ③ 保育実習Ⅰ（保育所）
- ④ 保育実習Ⅱ（保育所）

調査内容

① フェイスシート

- ご記入日
- 県名
- 養成校名
- 養成年数
- 保育士資格取得予定学生の定員数
- 記入ご担当者名
- ご担当されている実習
- 主なご担当科目
- 実習指導歴
- 保育実習Ⅰと保育実習Ⅱの養成校としての基本的な実習先の決め方

② 保育所実習における実習全般について

1) 養成校と実習施設との連携

- 養成校と実習施設との実習内容についての打ち合わせ方法
- 望ましいと考える打ち合わせ方法
- 実習施設への依頼有無とその内容

2) 教員内連携について

- 情報共有および相談体制の有無
- 情報共有者及び相談相手とその方法
- 訪問指導マニュアルの有無
- 訪問指導内容と学生指導への活用方法
- 訪問指導担当者数
- 訪問指導担当者と学生の顔合わせの取り組み

3) 指導案および日誌について

- 作成指導の方法
- 指導案および日誌記入の所要時間の把握
有無
- 実習時間内での指導案および日誌記入時間の確保の適否
- 日誌の記録量

4) 実習評価の方法と対応について

- 実習評価票の学生への開示とその方法
- 実習評価票と成績への反映とその基準
- 評価不能となった場合の対応
- 不適切な評価の対応

5) 養成校が考える実習内容について

- 保育実習ⅠおよびⅡにおける、教科目の教授内容と評価票の内容

③ 保育実習Ⅰ（保育所）の実際について

- ・ 平成30年度の実習生数と施設数
- ・ 指導案を要する責任実習の適否とその理由
- ・ 部分、責任実習の依頼有無と回数およびその理由
- ・ 部分、責任実習の回数把握
- ・ 部分、責任実習の不適切だと思う回数とその対応
- ・ 部分、責任実習の適切な回数と理由
- ・ 保育実習Ⅰの適当な実習日数

④ 保育実習Ⅱ（保育所）の実際について

- 平成30年度の実習生数と実習先数
- 指導案を要しない部分実習の依頼有無と回数及びその理由
- 部分、責任実習の依頼有無と回数およびその理由
- 部分、責任実習の回数把握
- 部分、責任実習の不適切な場合の対応
- 責任実習未実施の場合の対応
- 部分、責任実習の適切な回数と理由
- 保育実習Ⅱの適当な実習日数

(3) アンケートの集計方法

- 集計項目

保育所実習における実習全般

保育実習Ⅰ（保育所）

保育実習Ⅱ

- 集計方法

項目の内容ごとに量的に集計

自由記述回答は、KHCoderを用いて検討

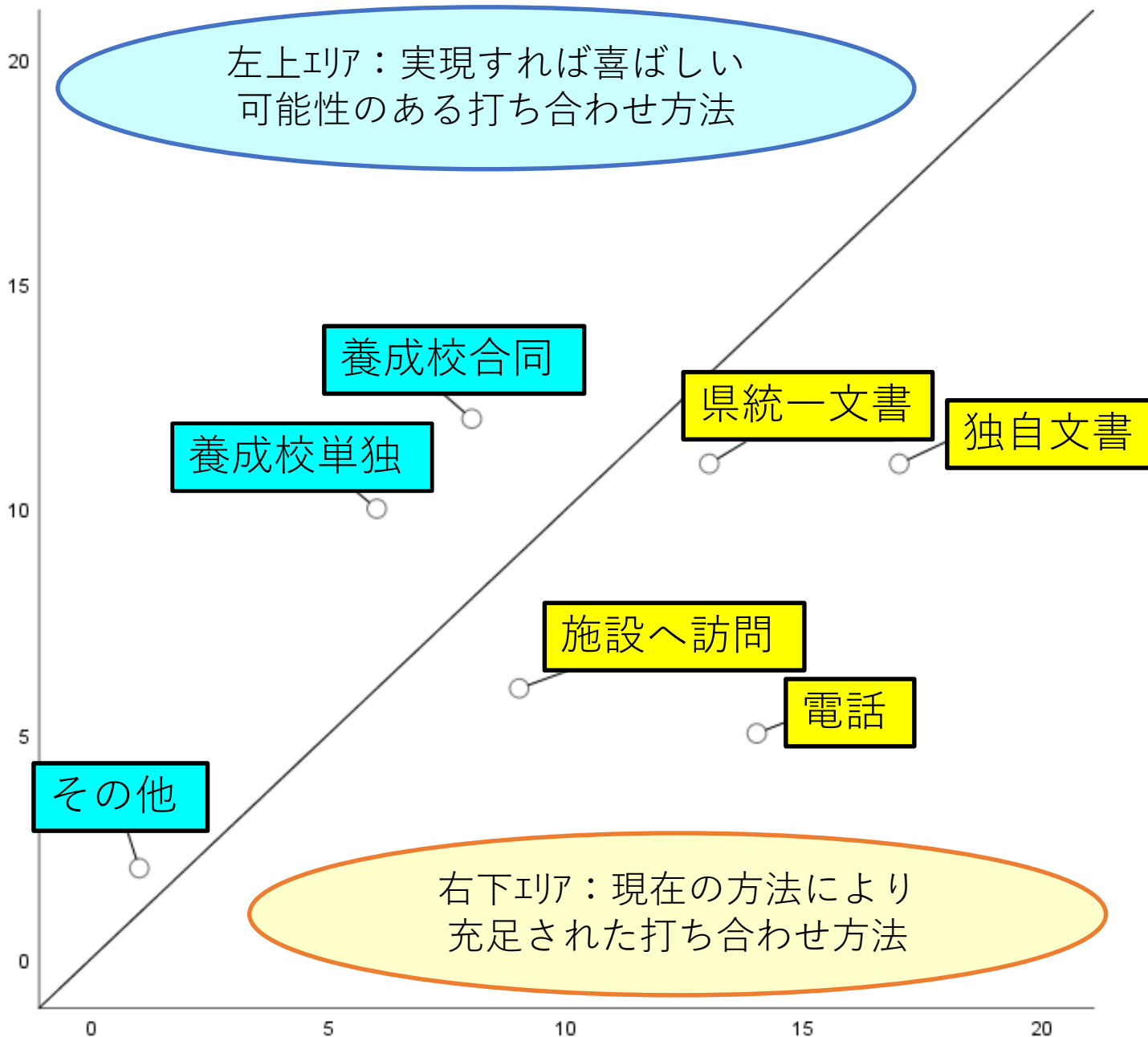
結果と考察

養成校(回答者)の属性・ⅠⅡ実習先

		数	%
養成年数 (n=41)	2年	27	65.9
	2・3年	2	4.9
	4年	12	29.3
定員数 (n=41)	～50人	16	39.0
	51～100人	20	48.8
	101人～	5	12.2
担当実習 (n=41)	保育実習Ⅰ(保育所)	39	95.1
	保育実習Ⅰ(施設)	23	56.1
	保育実習Ⅱ	35	85.4
	保育実習Ⅲ	7	17.1
実習指導歴 (n=41)	1年目	0	0
	2～3年目	2	4.9
	4～6年目	11	26.8
	7～9年目	9	22.0
	10年以上	19	46.3
ⅠとⅡの実習先 (n=41)	同一施設で実施	32	78.0
	異なる施設で実施	3	7.3
	その他	6	14.6

実習施設と事前に行う 打ち合わせ方法の現在と理想

理想の打ち合わせ方法（回答数）



現在の打ち合わせ方法（回答数）

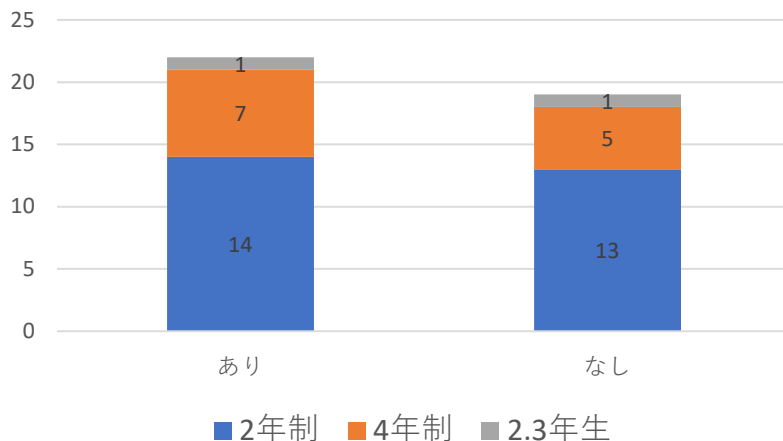
指導内容の 実習施設への依頼の有無

内容	依頼の有無	数	%
①実習計画の学生への提示 (n=39)	有り	12	30.8
	無し	27	69.2
②行事計画の学生への提示 (n=39)	有り	11	28.2
	無し	28	71.8
③多様な勤務体制 (n=39)	有り	12	30.8
	無し	27	69.2
④中間発表会の実施 (n=38)	有り	2	5.3
	無し	36	94.7
⑤最終発表会の実施 (n=38)	有り	9	23.7
	無し	29	76.3
⑥子育て支援に関する理解 (n=38)	有り	10	26.3
	無し	28	73.7
⑦地域社会との連携の理解 (n=38)	有り	8	21.1
	無し	30	78.9
⑧配属クラス（年齢） (n=40)	有り	14	35.0
	無し	26	65.0
⑨計画や記録(保育課程、月案、 連絡帳等)の開示(n=38)	有り	13	34.2
	無し	25	65.8
⑩その他	記述数	4	

※無回答を除いた数値

訪問指導マニュアル・指導内容の活用他

訪問指導マニュアルの有無



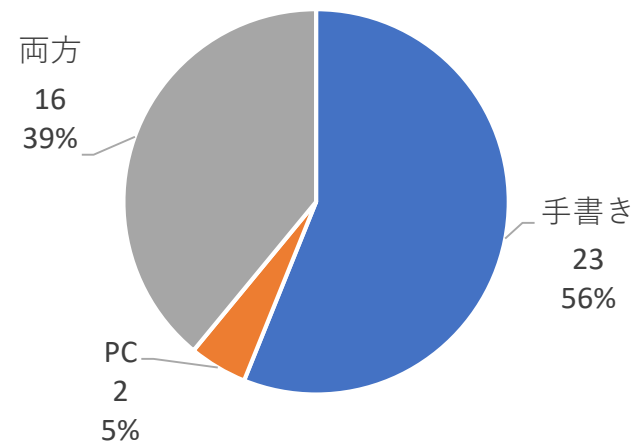
訪問指導内容の学生指導への活用（実習中）

- 23校が訪問時の面談にて指導
面談できない場合は、その日のうちに電話又はメールにて連絡
- 4校が慎重に伝え動機づける記載
「士気にマイナスにならないよう」「言葉を選びながら」...
- 13校は実習中について記載なし
- その他：チェックリストによる確認他

訪問指導内容の学生指導への活用（実習後）

- 30校が面談等により個別指導
- 8校が授業にて活用
- 2校が担当者間で共有
- 1校が報告書で共有
- 1校が実習後の活用はあまりない

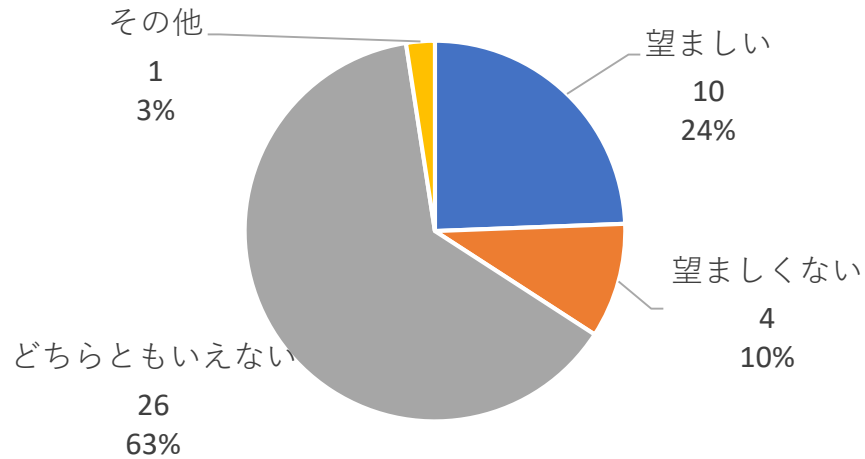
実習中の指導案作成の方法



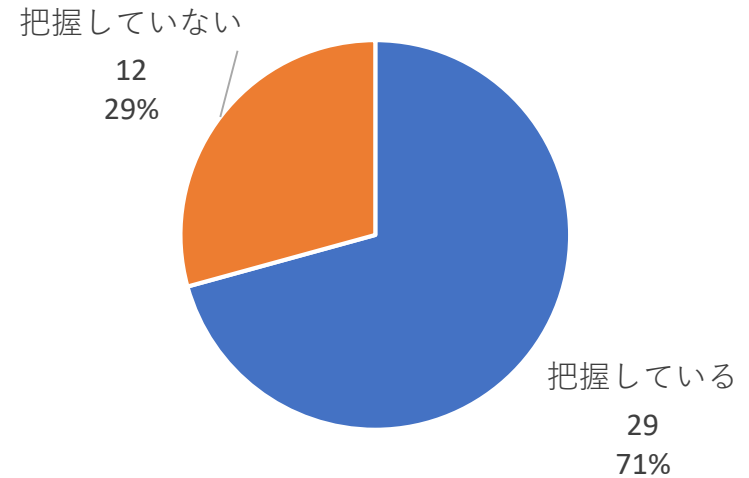
実習時間内の時間設定について

指導案作成時間を

実習時間内に設けることについて

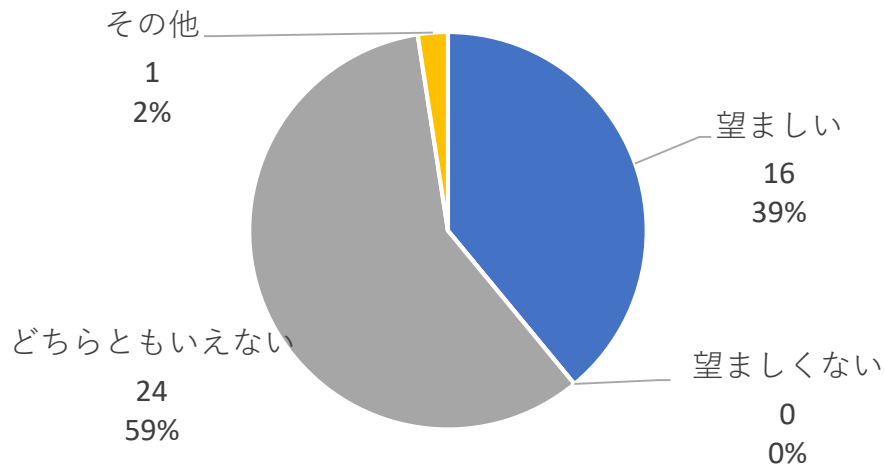


指導案作成に費やす時間の把握

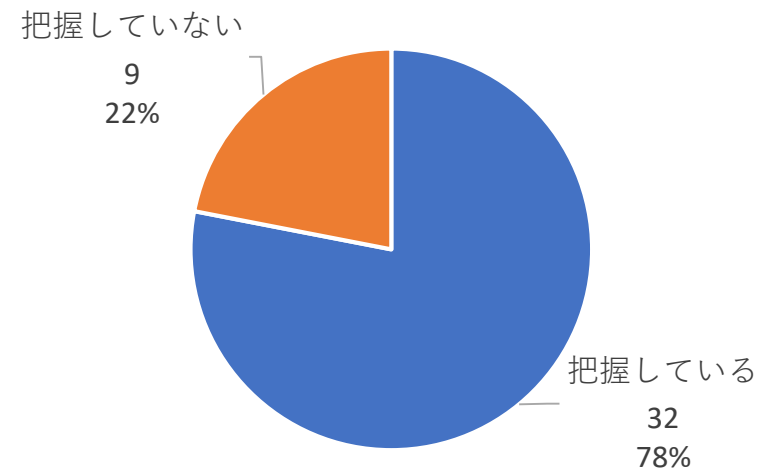


日誌作成時間を

実習時間内に設けることについて

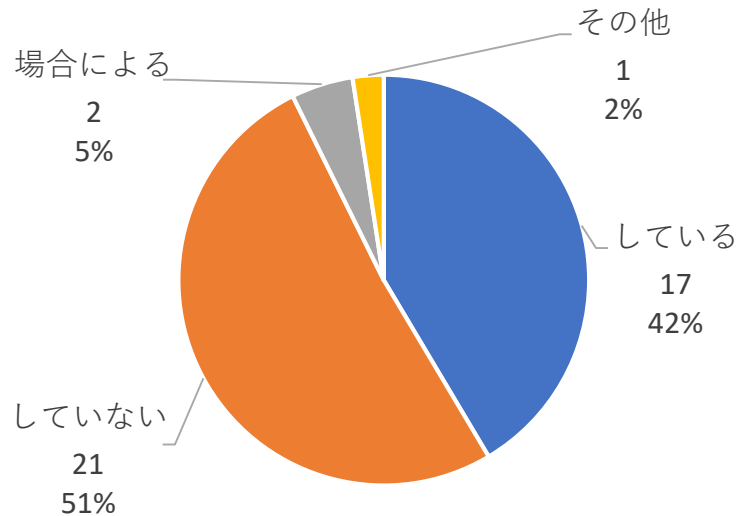


日誌作成に費やす時間の把握

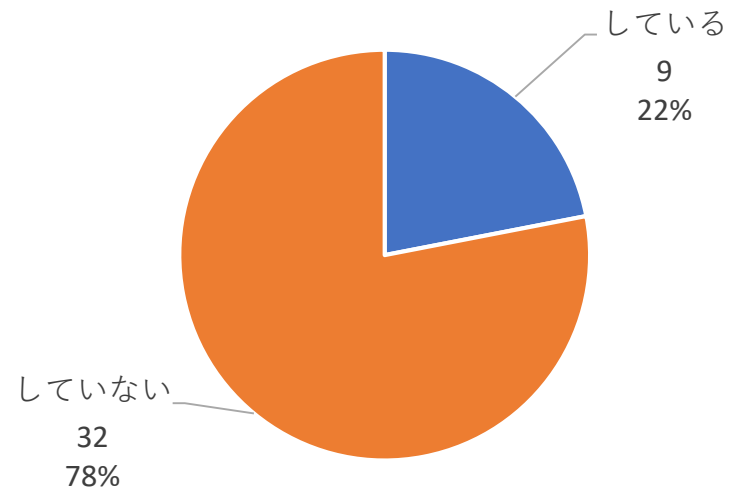


実習施設からの評価について

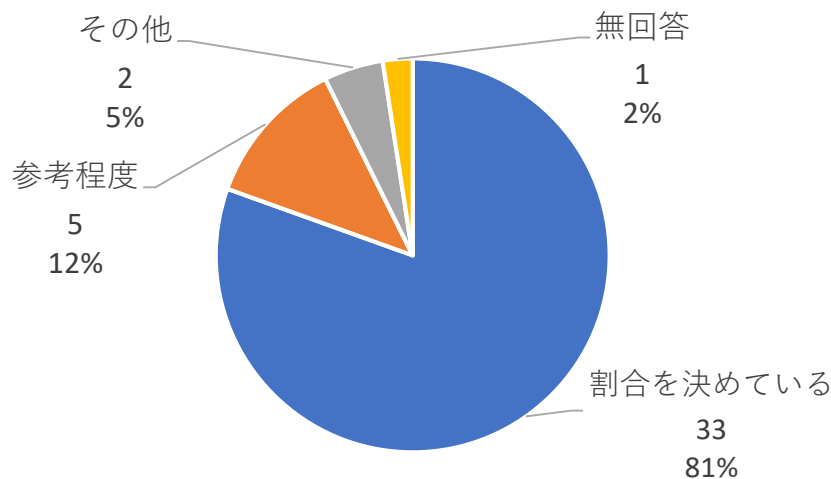
評価を学生に開示しているか



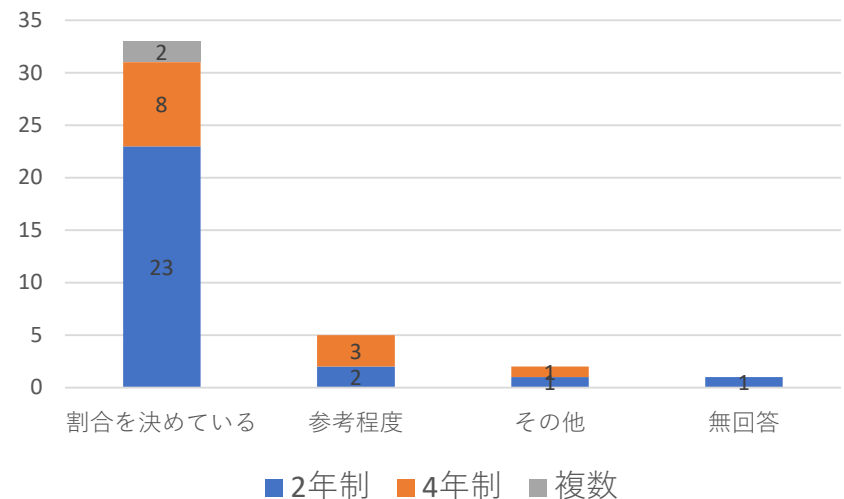
開示を施設と協議しているか



実習施設からの評価の反映方法

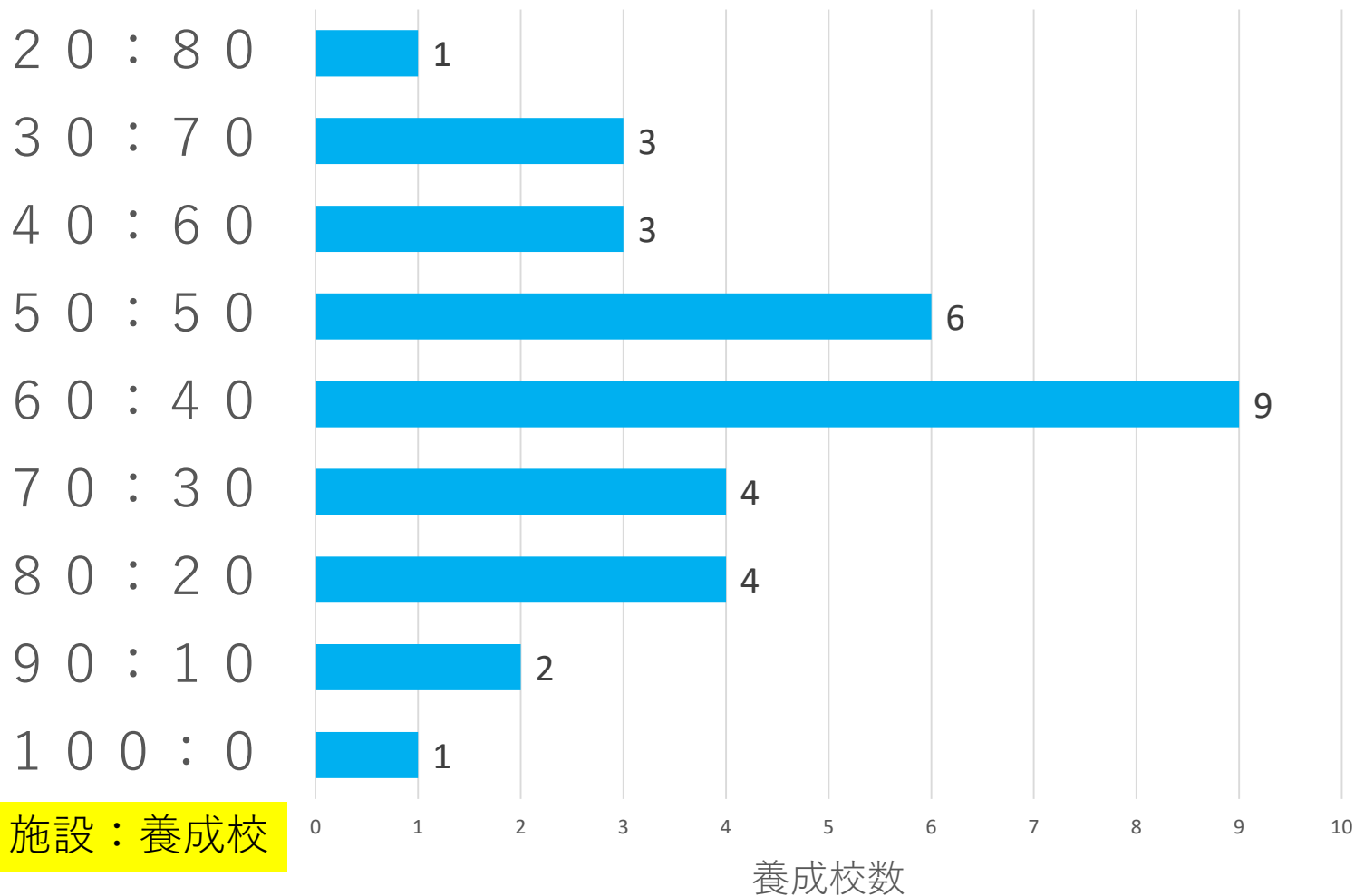


評価の反映方法 (2・4年制内訳)



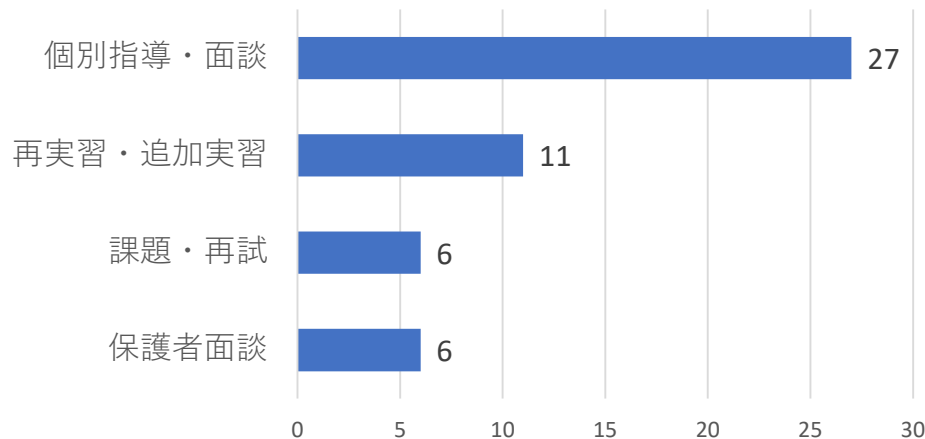
割合を決めている養成校 33校の評価割合

評価の割合の配分



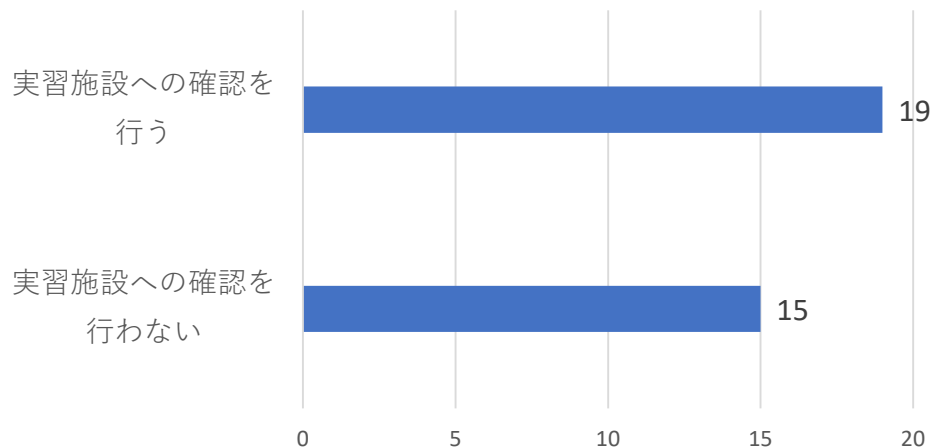
評価不能の対応、不適切評価の対応

評価不能の場合の対応



- 面談による個別指導
- 実習先への訪問による事実内容の確認
- 時に保護者を含めた面談を行う
- 中には再実習(同一施設あるいは新たな施設)や課題提出により改めて評価をつける対応も

適切ではない評価の場合の対応



- 高評価の場合はそのまま
- 著しい低評価で実習先に確認する場合
 - 電話連絡や訪問
- 著しい低評価で実習先に確認しない場合
 - 学生への聞き取り・面談
 - 学内担当者会議
- 丁寧な面談の上で補習・課題・再実習・ボランティア他

保育実習 I について (保育所)

部分実習（A～D）の依頼状況

回答数：41校

	依頼している	依頼していない
	7校	34校

部分実習（指導案を必要としない）

A 主に手遊びや児童文化財を用いた部分実習

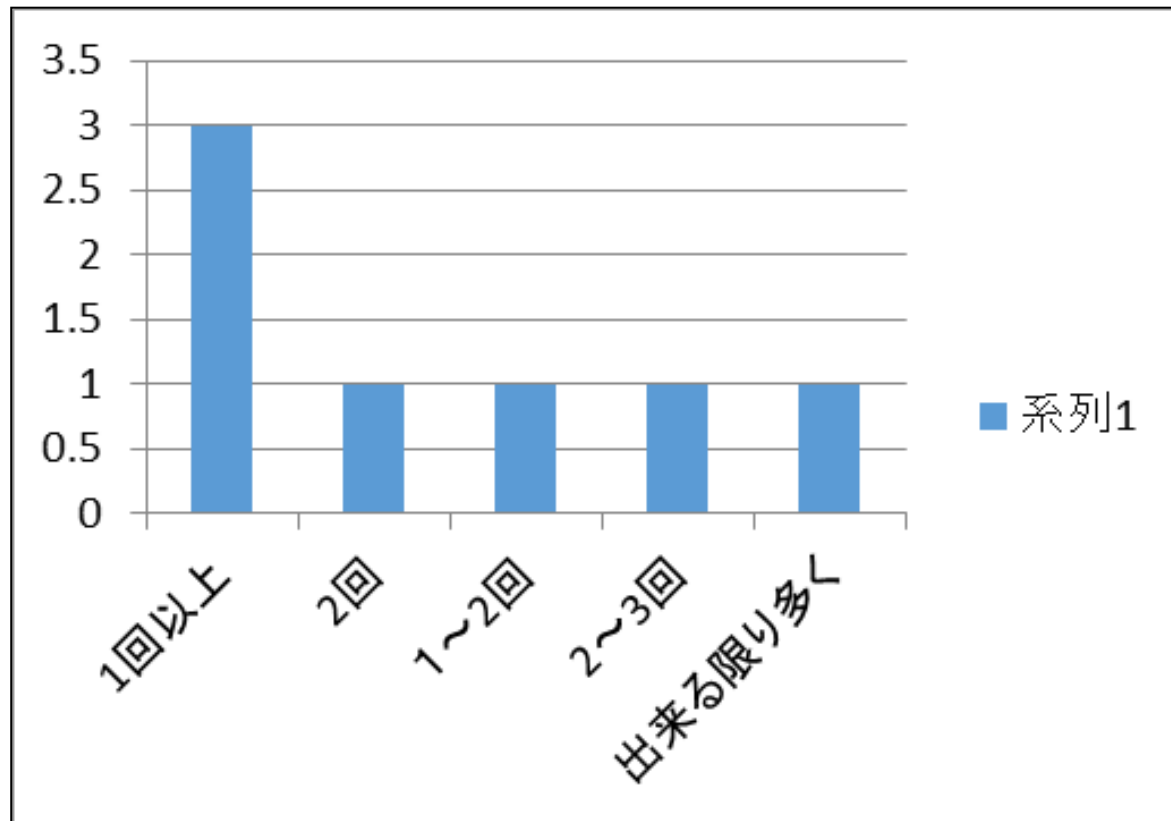
B その日の主たる設定保育を行う部分実習

C 1日の流れの一部（朝の集まり、昼食、午睡、等）を担う部分実習

D 上記以外の部分実習

部分実習（A～D）を 依頼している場合の希望回数

（全7校の回答）



～部分実習（A～D）の依頼について～

○「依頼する」理由

- 体験することが一番の学びであるから。
- 保育実習Ⅱに向けて少しでも経験しておいた方がよいから。

など

○「依頼しない」理由

- 基本的に実習先にお任せしている。
- 実習先の事情を踏まえて決めてもらっている。
- 実習生の準備が間に合わないと思われる。

など

部分実習（A～D）の回数の把握

回答数：41校

	把握している	把握していない
	22校	19校

把握している場合の最大と最小

回答数：22校

	最大	最小	平均
	1～毎日	0～5回	3.2回

実習施設による部分実習（A～D）の実施回数の差

回答数：41校

	とてもある	ある	それほどない
	10校	19校	12校

責任実習の必要性

回答数：41校

	必要である	必要ではない	どちらとも いえない
	20校	20校	1校

責任実習（指導案を要する）

E 部分実習

F 半日責任実習

G 全日責任実習

H その他の責任実習

○責任実習が必要な理由

- やることによって気づきが深まる。
- 保育実習Ⅱへ生かすための準備が出来る。
- 保育は思い通りにならない。それを実感する為に責任実習が必要。

など

○責任実習が必要ではない理由

- 保育実習Ⅰは子どもの理解に重点をおいている。したがって初めての実習で時期尚早。
- 開講時期・カリキュラムの関係・タイミングの問題がある。
- ⅠとⅡの期間が近すぎるので難しい。

など

責任実習（E～H）回数への依頼状況

回答数：41校

	している	していない	場合による
	5校	36校	0校

依頼している場合の回数

回答数：5校

	1回以上	2回	1～2回
	3校	1校	1校

～責任実習の依頼について～

○「依頼している」理由

- 1回以上でお願いしている。しかし園の都合にまかせている。
- 日々の活動に支障がでないように、1～2回が妥当だと思う。

など

○「依頼していない」理由

- 基本的に実習先をお願いしている。
- 初めは現場に身を置くだけで十分学習できる。
- 『実習の手引き』に回数までの明記はない。

など

責任実習（E～H）の回数の把握

回答数：41校

把握している	把握していない	無回答
26校	13校	2校

把握している場合の最大と最小

回答数：26校

最大	最小	平均
1～毎日	0～1回	1.7回

実習施設による 責任実習 (E~H) の実施回数の差

回答数：41校

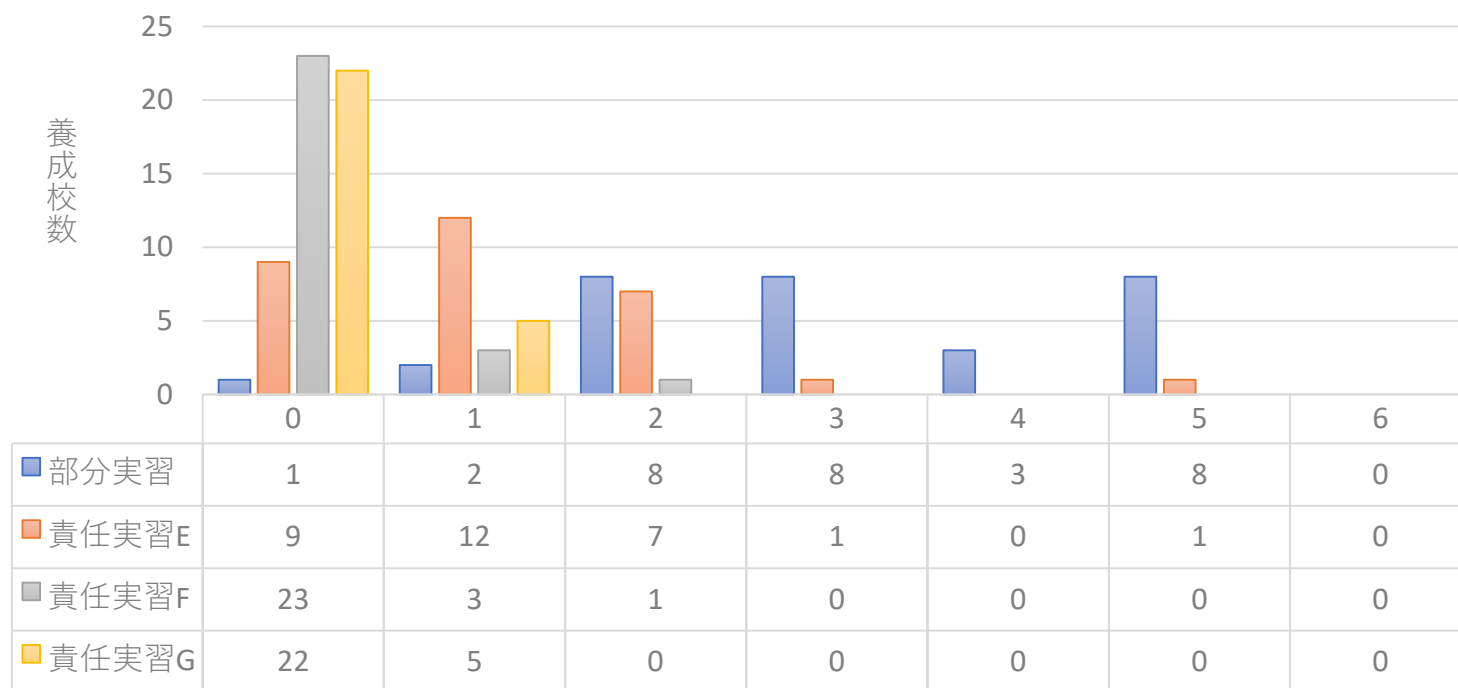
	とてもある	ある	それほどない
	10校	19校	12校

部分・責任実習の回数が不適切な時

回答数：29校

	施設側に相談する	実習先に任せている
	22校	7校

部分・責任実習（E～G）の 望ましい回数



■ 部分実習 ■ 責任実習E ■ 責任実習F ■ 責任実習G

保育実習の実習期間(10日間)について

回答数：41校

	多い	適当	少ない
	0校	38校	3校

少ないと思った場合の適切な期間

回答数：3校

	12日間	無回答
	2校	1校

～保育実習の実習期間(10日間)について～

○少ないと思う理由

(12日間希望)

- ・各年齢での実習を踏まえ、特定の年齢での実習を経験することで、各年齢の実態も踏まえつつ責任実習も経験することが出来る日数ではないかと思われる。

(12日間希望)

- ・学びの過程を考えると、12日間でも少ないように感じるが、学生の体力や意識の持続では12日間が精いっぱいのように感じる。

保育実習Ⅱについて (保育所)

実習先の内訳（保Ⅰ×保Ⅱ）

	同一	保×保	保×認	認×保	認×認	保・認 ×小・事	小・事 ×保・認
養成 校数	39	13	9	4	2	2	1

(件)

※ 「保」 … 保育所

「認」 … 認定こども園

「小」 … 小規模保育（A型・B型）

「事」 … 事業所内保育事業

部分・責任実習の回数の依頼有無

(件)

	している	していない	その他・無回答
部分実習	<u>4</u>	36	1
責任実習	<u>14</u>	24	3

◇「依頼している」場合

○部分実習

- ・ 1回以上 : 1件
- ・ 2回 : 1件
- ・ 2～3回 : 1件
- ・ 可能な限り : 1件

○責任実習

- ・ 1回 : 3件
- ・ 1回以上 : 4件
- ・ 1～2回 : 2件
- ・ 2～3回 : 2件
- ・ 3回 : 1件
- ・ 5回 : 1件
- ・ 可能な限り : 1件

◇部分実習の回数について

○「依頼している」理由

- ・体験は最良の学びであるから。
- ・実習手引きに示してあるため。

○「依頼していない」理由

- ・実習先の都合を優先させて適宜実施して下さるようお願いしているから。
- ・実習先（指導方針）にお任せしているから。
- ・手引きに記載があるため（あえて行わない）。

など

◇責任実習の回数について

○「依頼している」理由

- ・実習施設の状況と学生の状況により多く実施できない状況を考慮しているため。
- ・睡眠時間が取れなくなる可能性があるため。
- ・手引きに示してあるため。 など

○「依頼していない」理由

- ・受け入れ施設の予定などもあるため。
- ・実習手引き内に、実施形態例および回数目安が記載されているため（あえて行わない）。 など

部分・責任実習の実施回数の把握有無

(件)

	している	していない	その他・無回答
部分実習	<u>17</u>	22	2
責任実習	<u>25</u>	15	1

◇「把握している」場合

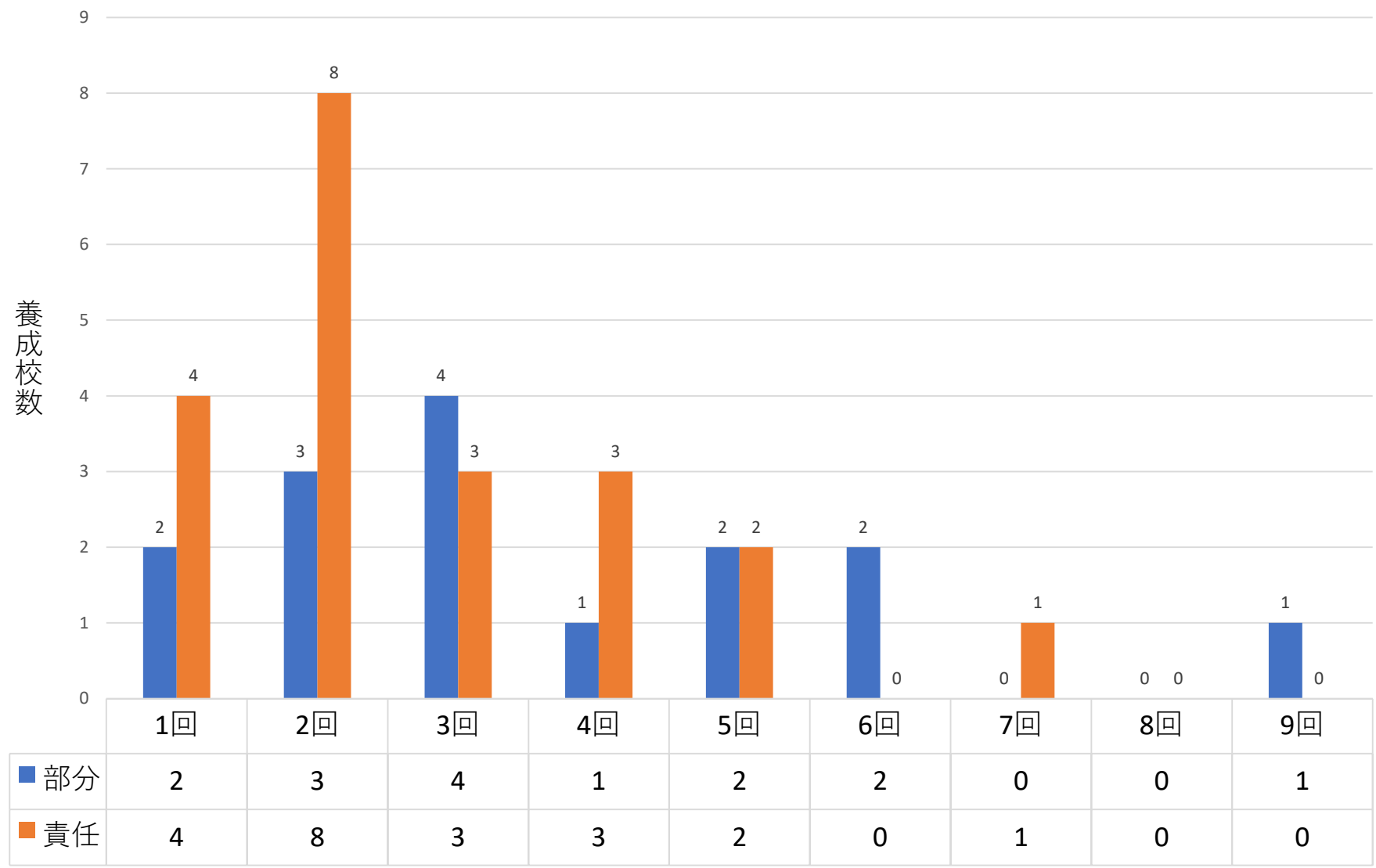
○部分実習

平均3.6回 (SD 2.14)

○責任実習

平均2.7回 (SD 1.60)

部分・責任実習の実施回数（平均）の分布



責任実習の実施回数の差

(件)

	とてもある	ある	さほどない
養成 校数	<u>7</u>	<u>20</u>	13

○「とてもある」・「ある場合」…

- ・ 責任実習を1回だけのところもあれば、ほぼ毎日指導案を要する部分実習を行っているところもある。
- ・ 実施しなくても良いと考えている実習施設もある。また、指導案を作成しない部分実習を複数回実施すれば責任実習になると考えている実習施設もあった。
- ・ 実習園における実情もあるため、実際責任実習まで行うことが出来ない園もある。

など

部分・責任実習の回数が不適切な場合

◇対応の有無 (件)

	対応する	対応しない	前例無し	無回答
養成 校数	<u>22</u>	13	4	1

○対応の仕方 (件;重複有)

	直接園に確認 (巡回時・電話にて)	協議会にて お願いする	学生への フォロー
養成 校数	22	2	4

○対応の時期 (件;重複有)

	実習前	実習中	実習後
養成 校数	9	15	20

責任実習を実施できなかった場合

◇対応の有無

(件)

	対応する	対応しない	前例無し	その他
養成 校数	<u>13</u>	10	15	2

○対応の仕方

(件;重複有)

	養成校での 授業にて対応	学生への 直接指導	学生の自主的な学 びに委ねる	再依頼 再実習
養成 校数	3	6	2	4

部分・責任実習の望ましい回数を回答するにあたっての理由

(件;重複有)

	施設への 配慮	学生の学び の優先	学生の負担 への配慮	その他
養成 校数	2	17	13	10

○回答例

- ・ 全日責任実習が子どもの最善の利益から考えて難しいという現場の声があり…
- ・ それぞれの実習形態を経験することによってそれぞれの場面での実践的な力を身に付けることができるため。
- ・ あまり回数が多いと計画案の段階で負荷がかかりすぎるので…

など

保育実習Ⅱの日数（10日間）について

(件)

	多 い	適 当	少 ない	無回答
養成 校数	0	37	<u>3</u>	1

- 適当だと考える日数
- ・ 15日：2件
 - ・ 20日：1件

○実習日数「15日・20日」が適切と考える理由

- ・園も学生も双方がじっくりと腰を据えて取り組める期間が必要であると考え（保育士が保育業務に追われ実習指導がままならない現況のような環境であれば期間延長は意味をなさないとと言える）
- ・10日間では子どもを観察するだけで終わってしまうから。

など

まとめと今後の課題

まとめ①

養成校と実習施設との連携について

◇実習施設との事前打ち合わせについて

- ・ 実際に行っていること
- ・ 理想と考えていること

◇訪問指導について

- ・ マニュアルの有無
- ・ 活用方法

◇評価について

- ・ 評価＝考え方に幅がある
- ・ 学生への開示について
- ・ 割合

(100 : 0 どう考えるか施設の評価がそのまま)

まとめ②

実習内容について

◇部分実習・責任実習の実習回数について

- ・依頼については

「学生の学び優先」 「学生の負担に配慮」

「園の事情を考慮」

◇部分実習・責任実習の必要性について。

- ・実習Ⅰでは・・・

- ・実習Ⅱでは・・・

◇実習先の内訳・実習の日数について

- ・実習Ⅱではあえて同じ施設での実習をしない養成校もある。

- ・実習の日数をどう考えるか

今後の課題①

◇養成校教員の意識

- ・ 実習施設との連携をどのように考えるか
- ・ 養成校の教員同士の連携をどのように考えるか
- ・ 学生の意欲への対応。
- ・ 実習Ⅰ・Ⅱで何を学んでほしいのか。
期待すること（学生に対して）
- ・ 学びを明確にして部分・責任実習回数を依頼するとしたらどのくらいが適当か
- ・ 実習の日数

今後の課題②

◇実習施設に望むこと

- ・連携について

どんな内容を提供したらよいのか
どんな場面で連携できるか

- ・実習内容について

部分・責任実習に回数

実習性に何を求めているのか

- ・その他に何があるのか

実習生の学びをどう考えているのか

ガイドラインの改訂について

○「保育実習指導のガイドラインVer. IV」（平成30年4月）を見直し、ver. IV. 1にするにあたり下記の点を加筆・修正

- 一般社団法人全国保育士養成協議会編
（2007）『保育実習のミニマムスタンダード～現場と養成校が共同して保育士を育てる』



- 『保育実習指導のミニマムスタンダードVer. 2「協働」する保育士養成』より該当する箇所から引用。

ガイドラインの改訂について

- 「指定保育士養成施設の指定および運営の基準について」（平成30年4月27日）に基づき、「教授内容の概要」等、該当する部分の修正
- 「平成」表記の削除
- 語句の統一
（例）関わり と かかわり
養成校教員 と 教員
振り返り と ふりかえり 等

ガイドラインの改訂について

○保育実習指導のガイドラインについて○

- 目的：東北ブロックの保育実習指導の質の向上を図るため。新任の養成校教員の参考とするため
- 全国保育士養成協議会東北ブロックHPにて公開
- 新任の先生はもちろんのこと、先生方にもご覧いただき、ご指導いただければ幸いです。
- 今年度よりワード文書にて公開しているため、ご活用ください。

○今後の課題○

- 養成校からのアンケートの結果とこれからお送りする保育所へのアンケートの結果をもとに、「保育実習指導のガイドライン Ver. IV.1」の充実を図る
- キーワード
「協働」する保育士養成